

初めて海の水を口に含んだとき、普段慣れた水道の水のようなつもりで口をつけると、思いもよらないしょっぱさに驚きます。

そのような驚き、皆さんも経験ありませんでしょうか？

もちろん、海に行った経験のない方であっても、海の水が塩辛いことは、誰からともなく教わって知識としては知っています。しかしながら、海水がどれほどの辛さであるのかということについては、飲んでみないとわかりません。飲むという体験から、私たちは、自分自身の身体の内側に、より正確な知識を蓄<sup>たくわ</sup>えることができます。

また、海を地図やテレビで眺めているよりも、実際に海辺に行き目の前に広がる水平線に圧倒されることが、より実感のこもった知識として蓄えられ、知識は一層豊かなものへと変化していきます。

自然の世界における海の水は、山や大地、海原に降った雨や雪、川を流れる水や溶けた氷などによって出来上がっています。こうして出来上がった海水の中には、自然にある、あらゆる元素が含まれているといわれます。海は、様々なものを蓄え、その豊かさを維持し、いのちを育てていくのです。

私たちは、母親の羊水の小さな海の中で生まれ、この世界に生まれます。そして、海で味わった塩辛い味を知った時のように、さまざまな知識や経験を少しずつ蓄えながら、幾多の困難を乗り越え、喜びや悲しみを受け止めながら成長します。

そして、日々自分自身をより豊かなものにしていけるのです。

私たちは、海に対してどこかしら、憧れや畏敬の念を持っています。それはすべてのものを受け入れ、そして育む命の源であるからではないでしょうか？